



河出書房新社・中央公論新社創業130周年
関西大学創立130周年記念トークイベント



出版から考える戦後日本

今年創業130周年を迎えている河出書房新社と中央公論新社。長い歴史を持ちながら、現在も新しいコンテンツを世に送り続ける両社を中心に、出版文化とは何なのかを戦後史から検証する。世代の異なる3人の論客による熱いトークの火花が散る。

18:40～

開会

司会 藤崎 寛之 (河出書房新社)

18:45～

講演

「知の大衆化」再考
——全集、新書、文庫の時代——

18:45～19:15 大澤 聡 (批評家、近畿大学文芸学部准教授)

「刊行物で辿る二つの出版社
——ごくごく私的に——」

19:15～19:45 片山 杜秀 (慶應義塾大学法学部教授)

20:00～

鼎談

「出版と読書の変容」
竹内 洋(ファシリテーター)、大澤 聡、片山 杜秀

20:50

閉会

大澤 聡 (おおさわ さとし)

1978年生まれ。批評家／メディア研究者。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。日本学術振興会特別研究員を経て、現在、近畿大学文芸学部准教授。博士(学術)。各種媒体にジャーナリズムや文芸に関する論考を発表。著書に『批評メディア論 戦前期日本の論壇と文壇』(岩波書店)、『1980年代』(共著、河出書房新社)など。最近では『文学』5・6月号(岩波書店)の特集「文壇のアルケオロジー」の責任編集をつとめた。



片山 杜秀 (かたやま もりひで)

1963年生まれ。評論家／思想史研究者。慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程単位修得退学。文学、歴史、芸術など幅広い分野にわたる論文、エッセイやコラムを執筆。現在、慶應義塾大学法学部教授。著書に『近代日本の右翼思想』(講談社選書メチエ)、『音盤考現学』、『音盤博物誌』(アルテスパブリッシング、両書で吉田秀和賞とサントリー学芸賞受賞)、『未完のファンズム』(新潮選書、司馬遼太郎賞受賞)など。



竹内 洋 (たけうち よう)

1942年生まれ。歴史社会学／教育社会学。京都大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。教育学博士(京都大学)。京都大学大学院教育学研究科教授、関西大学文学部教授、同人間健康学部教授を歴任。現在、関西大学東京センター長、関西大学名誉教授・京都大学名誉教授。社会批評、エッセイ、書評を執筆。著書に『日本のメトロクラシー』(東京大学出版会、第39回日経・経済図書文化賞受賞)、『革新幻想の戦後史』(中央公論新社、第13回読売・吉野作造賞受賞)、『教養主義の没落』(中公新書)など。



2016

10/21 (金) 18:40～21:00

参加無料

※受付は18:00から行います

会場

関西大学東京センター
03-3211-1670
東京都千代田区丸の内1-7-12サピアタワー9階
(JR東京駅日本橋口隣接・東京メトロ大手町駅B7出口直結)

<http://bit.ly/2aUDAPQ>

申込
フォーム



※お申し込みいただきました情報は、当センターで開催するシンポジウム等への参加受付・案内以外の目的には使用いたしません。



【入館方法】

サピアタワー3階オフィスロビー総合受付にて「ゲストカード」を受け取り、9階へお上がりください。